

議 事 録

会議名 第4回国見版 CI 策定検討委員会
日 時 令和5年11月21日(火) 13:30~15:00
出席者 委員:6名(齊藤委員長、持地委員、鈴木委員、近久委員、阿部委員、上神田委員)
欠席5名(佐藤委員、三栗野委員、齋藤委員、原田委員、伊藤委員)
事務局:企画調整課長、蓬田、加藤
傍聴:2名

概 要 (意見交換等抜粋)

1 開会

2 委員長あいさつ

3 協議事項

(1) 国見版 CI (コーポレート・アイデンティティ) について

資料に基づき事務局から説明。

前回検討委員会の振り返りと新たなスローガン案として「寄り町 STAY 国見町」を提案。

(2) 意見交換

Aグループ

個人的には「寄り町」は良い言葉だと思う。グループでは、町内で寄る場所といえどどこかということ話を話していた。今のところは道の駅しか思い浮かばない。「寄り町」という言葉に負けないう、町内のどこに寄れば住みたい町につなげていけるのか、もう少し意見交換しながら詰めていく必要があると思う。

Bグループ

「寄り町」というコンセプトについては共感するところが多かったが、STAYは唐突感がある。STAY と寄り町の意味が重複している部分もあるため「寄り町 国見町」でも良いと思う。グラフィックを作るときにSTAYが活きるのであればそのまま残しても良いと思う。

(3) その他

4 閉会

議事録（詳細）

1 開会

2 委員長あいさつ

前回3月に開催し、半年以上期間が空いてしまったが、この間、事務局で議論を進め、本日は具体的な案をまとめて来られた。その内容を報告・発表するので、それについてみなさんで議論をお願いしたい。楽しく議論していきましょう。

3 協議事項

(1) 国見版CI（コーポレート・アイデンティティ）について

資料に基づき事務局から説明。

前回検討委員会の振り返りと新たなスローガン案として「寄り町 STAY 国見町」を提案。

(2) 意見交換

新たに提案したスローガン案について、これまでのスローガン案も踏まえながら、グループごとに分かれて、感想や意見などを共有。共有後、グループごとに発表。

【発表】

Aグループ

- ・個人的には「寄り町」は良い言葉だと思う。グループでは、町内で寄る場所といえどどこかということと話していた。今のところは道の駅しか思い浮かばない。「寄り町」という言葉に負けないよう、町内のどこに寄れば住みたい町につなげていけるのか、もう少し意見交換しながら詰めていく必要があると思う。

Bグループ

- ・「寄り町」というコンセプトについては共感するところが多かったが、STAYが唐突感がある。STAYと寄り町の意味が重複している部分もあるため「寄り町 国見町」でも良いと思う。グラフィックを作るときにSTAYが活きるのであればそのまま残しても良いと思う。

斉藤睦委員長

- ・Aグループは、寄ることの中身をもっと詰めておかないとスローガン倒れになってしまう。町の良さをもっと発見する意味でも、さらに議論していったほうが良いという意見。
- ・Bグループは「寄り町」は町の目標も含めてポイントを表しているが、STAYは英語でもあり唐突かもしれないという意見であった。確かに唐突感はあるので、STAYをどう上手く扱っていくかが今後の課題であると感じる。
- ・CIには2つのポイントがあると考えている。1つ目はシンプルであればあるほど良い。もう1点は使い勝手の良さ。どの場面でも広く使えることが重要と考えている。
- ・STAYに関しては、今のところ町内に宿泊する場所があまりない。STAYをどう表現するかは別として、今後STAYする場所が増えることを目標として持ちながら「寄り町 STAY 国見町」の案で推していった良いのではないかという意見であると感じた。

傍聴者

- ・「寄り町」のコンセプトは悪くないが、用途が限られており、CIの本質からずれているよう

に感じた。本来C Iはイメージ統合戦略や統合理念と呼ばれるものであり、国見町のあるべき姿や目指すべき方向性の確認と、これまでばらばらだった町のイメージを統一することが目的だったと思う。人で言うと、私はこういう人間であり、こういう生き方を目指していますというようなことを町が主体となって発信する時に用いられるものがC Iになる。今行われているエリアデザインラボやクニミノマド事業で「寄り町」という言葉が使えるのかというのが気になった。

また、国見町の本質的な価値が何なのかを抽出できていないまま、スローガンの案がたくさん出てきている。町の本質をとらえる最も重要なプロセスが抜け落ちた状況でスローガンやロゴの制作に着手している流れに疑問を抱いている。

第1回目の検討委員会で委員の方から、国見町ではどんな作物をつくっても良くできる、町民性に関して悪い人がいないといった意見が出されていた。移住者に対しても排除する空気がないと感じている。どんな作物でも育つ恵まれた土壌があり、どんな人が来ても受け入れてしまう寛容な町民性があり、一言で言うと「包摂性」という言葉が浮かんだ。町の持つ大きな価値であると思った。それを町の価値として外に伝えていくにあたり、どのようなスローガン・シンボルがいいのかを考えると今出ている案からは選べない。

- C Iは一般的にイメージアップ等のために企業が行っているが、国見版C Iというのは、職員が着用しているフリースのロゴ、道の駅のロゴなどたくさんあるロゴを全て統一するのか。数年前に町の封筒に印刷されているロゴが、C Iなど何もやっていないにもかかわらず、いつの間にか変わっていた。

なんのためにC Iをやっているのかをもっと町民に知らせるべき。みなさん一生懸命取り組んでいるのは分かるが、伝わっていない。何をやっているのか分からない。やっていることをもっとPRしていくべき。

C Iで決まったロゴと町章との使い分けはどうするのか。ロゴはどのような場面で使い、町章はどのような場面で使うのかが分からない。

スローガンには「国見」ではなく「国見町」と「町」まで入れてほしい。

斉藤睦委員長

- どういうものがC Iなのかというのは様々議論があると思う。1年以上議論してきて、さまざま案があったなかで、最終案だろうとして出てきているのが「寄り町」であると考えている。国見町がどのような町なのか表す言葉として「包摂性」という言葉を挙げていただいたが「包摂性」という言葉を分かりやすく言い換えたのが「寄り町」だと私は受け止めている。みんながここに寄って、その人たちを受け入れ、その人たちの文化も参考にし、学び、受け入れてきたという営みを表すことを「寄り町」と表現していると思う。

ひとりずつ意見は違うと思うが、今回議論してきた中ではこのようになった。この案を町民のみなさんに見てもらい、このままで良いのか、「包摂性」が良いのか、また別のものが良いのではないかなどの議論になっていくと思う。

以前の検討委員会でC Iの使い方について、一定程度方向性は示されていたが、町章との使い分けをどうするかなど厳密なところまでは決めていなかった。事務局でもう少し整理すべき。くまモンのキャラクターを作った際には、どのように使っていくのかに関しては、キャラクター完成後も議論を重ねていた。通常は商標登録し、使用ルールについて決めていきがちだが、

どんどん使ってもらうために幅広い使用を認めている。使い方に関しては議論の余地はたくさんある。ぜひ今後も議論を重ね、良いものにしてほしい。

事務局

- 町章は法律で制定されているため今まで通り使用する。C Iについては現在乱立しているロゴなどをまとめていくものである。C Iについては今のところ法的裏付けは考えてはいない。町の封筒のデザインについてもこれまで担当者の考え等によりさまざま変わってきた。C Iのデザインが決まれば統一したものにしていきたい。

また、C Iの取り組みについてのPRや情報発信が足りなかったとの意見をいただき、確かにその通りだと感じた。協議している時間が長く、なかなか情報提供できるものがなかった。ある程度素案が固まったら積極的に町民のみなさんの意見をいただき、合意を得ながら決めていきたい。検討委員会には移住者の方も参加いただいているので、移住者目線の意見もうかがいながら、連携して進めていきたい。意見を収集するとさまざまな意見が出てきて、全てに答えるのは時間の制約もあり厳しいが、ある程度落としどころを見つけ賛同いただける方向にもっていきたいと考えているので、引き続きよろしくをお願いします。

(3) その他

次回 12月～1月頃検討委員会を開催予定。12月23日で検討委員のみなさまの任期が満了となるため、委員の継続をお願いした。

4 閉会